

市民ネットワーク・のだ 通信

No.129

2019年4月

野田市議会議員

小室みえこ

野田市山崎2694 C-302

ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/emky9781>

編集発行: 市民ネットワーク・のだ 住所: 野田市野田312 代表 鈴木真理子 Tel: 7123-6981 Fax: 7123-6982
<http://www.shiminnetnoda.sakura.ne.jp> Eメール shiminnetnoda@chorus.ocn.ne.jp

統一地方選から
何が見えてくるか?

■野田市における県議選

48年ぶりに無投票となり有権者の審判なしに当選が決まっていました。定数以上の候補者を擁立する場合に、「どうせ、当選は無理だろう」との心理が働くことも要因となり供託金やお金がかかる選挙の在り方も問題です。様々な要因が市民の選挙権を奪う状況をつくり出しています。

■県知事選、政令市の選挙

他市に選挙応援に行つて、感じたことは国政政党が擁立する候補者が多く、市民ネットワークのように地域政党として地域の課題を市民の目線で取り組む候補者の少ないことに危機感を覚えました。党利党略が優先されれば、市民の暮らしは二の次となってしまう

参考

無投票だった選挙(旧野田市)

昭和26年、昭和42年、昭和46年、平成31年でした。

里親説明会に参加

3月2日(土)
流山生涯学習センター



保護者の病気や離婚、虐待などの様々な理由で、家庭で暮らすことが出来ない子どもたちを家族の一員として家庭に迎え入れ、愛情と理解を持つて養育してくれる「里親さん」の取り組みの説明会に行ってきました。

◇施設で暮らす子どもたちの現状
◇里親制度の説明
◇里親さんの体験談
◇里親会の活動
◇個別相談

◆会場の様子

会場がいっぱい(88人の参加者)で、椅子が足りず立って話を聞かれている方がいらつしやるほど関心が高いと感じました。

◆参加者の様子

養護施設の職員からは「虐待を受けた子どもたちの措置が増えており、様々な事情のケース」の事例を個人情報抜きでお話いただきました。また、家族で参加された方も4組、5組いらしたようです。質疑の時間に、「実子がいるが一緒に育ててみたい」「実子がおらず、夫婦で話し合い里子さんを預かってみようかと考えている」「二ユースなどで聞く事情のある子どもたちを育てることに社会として取り組む必要があると考え参加した」という積極的なご意見をお聞きました。

小室みえこの感想

野田市での虐待死事件の影響も少なからずあると思いますが、大人が子どもたちの幸せを真剣に考え、役に立ちたいと思っている熱い思いは感動的でもあり、行政としての役割の在り方をさらに進める施策を考えたいと思います。



児童虐待事件がなぜ防げなかったのか? 行政の責任はどこにあるのか?

なぜ、関係機関(柏児童相談所等)との連携が出来ていなかったのか? 事件後の児童生徒、保護者への対応はどうだったのか? 今後のアンケート調査について

はどのように行っているのか? 多くの対応が求められています。

野田市(行政)は

要保護児童対策地域協議会や実務者会議等が形骸化されていたことが露呈しました。



この形骸化は、具体的にどのような問題なのでしょう? 誰もが発言しやすい会議の空気があったのか? 時間に追われ、本来議論すべき内容をどこまで議論出来ていたのか? 人員の不足はなかったのか? トップダウンの会議だったのではないか。実はこのような

リスクはどの会議にも潜んでいます。形だけの会議では大事なことが抜け落ちてしまいます。このことを踏まえて、柏児童相談所との連携については大きく改善していかなければならず、今後は措置(保護)された場合や保護が解除された時は、万全の支援体制と情報の共有と職員の意識改革を求めます。

事件後の対応策は?

野田市は、早急にできる対策として①関係機関の情報連携を図るための管理システムをつくる②実務者会議は経過報告を中心としたものから、どのように支援していくかを具体的に協議していく場に変える③スクールロイヤー(弁護士)制度を導入して法的な事案に対応できるようにしていく④市や学校職員が家庭訪問しても受入れを拒まれた時は警察OBも同行できる体制をつくる⑤地域での見守りや情報収集を行う⑥虐待防止条例の制定を審議していく

ヤ(弁護士)制度を導入して法的な事案に対応できるようにしていく④市や学校職員が家庭訪問しても受入れを拒まれた時は警察OBも同行できる体制をつくる⑤地域での見守りや情報収集を行う⑥虐待防止条例の制定を審議していく

小室みえこのコメント

新年度の補正予算は虐待防止対策を講じるための補正であり賛成しました。しかし、この対策は、大人が子どもを守る視点の対策です。さらに子どもへの人権教育を進めるべきです。自分自身を大切にできるようにするため、大人の接し方も変えていかなければ子どもの人権を守ることができません。もし人権侵害の状況にある場合は、どうやって自らを守ることが出来るのか? その力を育むことが大切です。時間も人手もかかる教育です。

またスクールソーシャルワーカーのように、教育と福祉の視点から関係機関を結んで動ける職員の配置が必要だと思えます。

一般質問では、虐待とDV支援を一緒に対応していく必要性も訴えました。子どもの視点で、どのように暴力を防いでいくかを考え続けましょう。

